

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7528027号
(P7528027)

(45)発行日 令和6年8月5日(2024.8.5)

(24)登録日 令和6年7月26日(2024.7.26)

(51)国際特許分類

F I

E 0 6 B 3/96 (2006.01) E 0 6 B 3/96 B

E 0 6 B 1/34 (2006.01) E 0 6 B 1/34 A

請求項の数 1 (全11頁)

(21)出願番号	特願2021-90276(P2021-90276)	(73)特許権者	000175560
(22)出願日	令和3年5月28日(2021.5.28)		三協立山株式会社
(65)公開番号	特開2022-182618(P2022-182618 A)	(74)代理人	富山県高岡市早川 7 0 番地 100136331
(43)公開日	令和4年12月8日(2022.12.8)		弁理士 小林 陽一
審査請求日	令和5年11月24日(2023.11.24)	(72)発明者	増山 新作 富山県高岡市早川 7 0 番地 三協立山株 式会社内
		(72)発明者	大垣 博範 富山県高岡市早川 7 0 番地 三協立山株 式会社内
		(72)発明者	広瀬 知規 富山県高岡市早川 7 0 番地 三協立山株 式会社内
		(72)発明者	伊藤 広大
		最終頁に続く	

(54)【発明の名称】 建具

(57)【特許請求の範囲】

【請求項 1】

縦枠と横枠とコーナー部品とを備え、縦枠と横枠は、外周側に向けて突出するカバー片を有し、横枠は、カバー片の長手方向端部に取付孔を有し、コーナー部品は、縦枠のカバー片の長手方向端部と横枠のカバー片の長手方向端部の外周側コーナー部を隠すものであり、横枠のカバー片の取付孔に挿入される係止突部と、縦枠のカバー片の長手方向端面に係止する係止突起と、係止突起の上方又は下方位置に設けられ、縦枠のカバー片に接着自在な両面テープを有し、係止突部を取付孔に室外側から挿入してから上下方向に移動することで係止突部が取付孔に係止し、係止突起が縦枠のカバー片の長手方向端面に係止するとともに両面テープが縦枠のカバー片に接着されることを特徴とする建具。

10

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、建具に関する。

【背景技術】

【0002】

縦枠と横枠とのコーナー部を外観よく処理したいという課題があった。

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

20

本発明は以上に述べた実情に鑑み、縦枠と横枠とのコーナー部を外観よく処理することのできる建具の提供を目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0004】

上記の課題を達成するために請求項1記載の発明による建具は、縦枠と横枠とコーナー部品とを備え、縦枠と横枠は、外周側に向けて突出するカバー片を有し、横枠は、カバー片の長手方向端部に取付孔を有し、コーナー部品は、縦枠のカバー片の長手方向端部と横枠のカバー片の長手方向端部の外周側コーナー部を隠すものであり、横枠のカバー片の取付孔に挿入される係止突部と、縦枠のカバー片の長手方向端面に係止する係止突起と、係止突起の上方又は下方位置に設けられ、縦枠のカバー片に接着自在な両面テープを有し、係止突部を取付孔に室外側から挿入してから上下方向に移動することで係止突部が取付孔に係止し、係止突起が縦枠のカバー片の長手方向端面に係止するとともに両面テープが縦枠のカバー片に接着されることを特徴とする。

10

【発明の効果】

【0005】

請求項1記載の発明による建具は、縦枠と横枠とコーナー部品とを備え、縦枠と横枠は、外周側に向けて突出するカバー片を有し、コーナー部品は、縦枠のカバー片の長手方向端部と横枠のカバー片の長手方向端部の外周側コーナー部を隠すため、縦枠と横枠とのコーナー部を外観よく処理することができる。しかもコーナー部品は、横枠のカバー片の取付孔に挿入される係止突部と、縦枠のカバー片の長手方向端面に係止する係止突起と、係止突起の上方又は下方位置に設けられ、縦枠のカバー片に接着自在な両面テープを有し、係止突部を取付孔に室外側から挿入してから上下方向に移動することで係止突部が取付孔に係止し、係止突起が縦枠のカバー片の長手方向端面に係止するとともに両面テープが縦枠のカバー片に接着されるので、コーナー部品の取付けが簡単に行え、尚且つコーナー部品を安定して取付けることができる。

20

【図面の簡単な説明】

【0006】

【図1】(a)は縦枠と下枠とのコーナー部の室外側正面図であり、(b)は同コーナー部の側面図、(c)は同コーナー部の平面図である。

【図2】本発明の建具の一実施形態を示す縦断面図である。

30

【図3】同建具の横断面図である。

【図4】(a)はコーナー部品の正面図、(b)は同側面図、(c)は同平面図、(d)は同底面図、(e)は同背面図である。

【図5】縦枠と下枠とのコーナー部の斜視図であって、コーナー部品を取付ける前の状態を示す。

【図6】コーナー部品の取付け方を示す縦断面図である。

【図7】(a)は外周枠を分解した状態で示すリフォーム枠の斜視図であり、(b)は新設枠とリフォーム枠を一体化したリフォーム枠の斜視図である。

【図8】リフォーム枠を既設枠が取り付けいた開口部に室外側から嵌め込むときの状態を示す縦断面図である。

40

【図9】リフォーム枠を既設枠が取り付けいた開口部に室外側から嵌め込むときの状態を示す横断面図である。

【図10】本発明の建具の他の実施形態を示す縦断面図である。

【発明を実施するための形態】

【0007】

以下、本発明の実施の形態を図面に基づいて説明する。図1～3は、本発明の建具の一実施形態を示している。本建具は、建物に設けられている既設の窓を新たな窓に改装する改装サッシに適用したものであって、図2, 3に示すように、既設枠4が取り付けいた開口部26に室外側から納めて躯体5に固定したリフォーム枠3と、リフォーム枠3の室内側に取付けた樹脂額縁27と、リフォーム枠3の上下の横枠に沿って摺動可能に納めた外障

50

子 2 8 と内障子 2 9 と網戸 3 0 とを備えている。

【 0 0 0 8 】

既設枠 4 は、引違い窓用のアングル無しのサッシ枠であり、図 2 , 3 に示すように、アルミ型材よりなる上枠 3 1 と下枠 3 2 と左右の縦枠 3 3 , 3 3 とを枠組みして構成され、いわゆる半外付けの状態では躯体 5 に取付けられている。既設枠 4 の室内側には、木製の既設額縁 3 4 が設けられている。

【 0 0 0 9 】

リフォーム枠 3 は、図 2 , 3 に示すように、新設枠 1 と、新設枠 1 の周囲を囲む外周枠 2 とで構成されている。

新設枠 1 は、アルミ型材よりなる上枠 3 5 と下枠 3 6 と左右の縦枠 3 7 , 3 7 とを四周枠組みして構成してある。上枠 3 5 と下枠 3 6 は、見込方向の中間部に断熱ブリッジ 3 8 を設けて断熱してある。また新設枠 1 は、室内側には樹脂アングル 3 9 を設け、室内側の結露を防止してある。

本新設枠 1 は、リフォーム枠ではない通常サッシ・一般サッシの半外付けのサッシ枠の躯体固定用のフィンを取付けたものである。

【 0 0 1 0 】

外周枠 2 は、図 2 , 3 , 7 に示すように、アルミ型材よりなる上枠（横枠） 4 5 と下枠（横枠） 4 6 と左右の縦枠 4 7 , 4 7 を四周枠組みして構成してある。より詳細には、上枠 4 5 と下枠 4 6 の長手方向の端面をシール材 5 6 （図 3 , 7 参照）を介して縦枠 4 7 , 4 7 の内周側面に突き当て、側方から縦枠に挿通したねじ 1 0 3 （図 7 参照）を上下枠 4 5 , 4 6 のタッピングホール 4 8 に螺入することで枠組みしてある。

上枠 4 5 と下枠 4 6 と左右の縦枠 4 7 は、図 2 , 3 に示すように、それぞれ見込方向に延びる主部材 4 9 と、主部材 4 9 の室外側端部に着脱自在に取付けられ、外周側に向けて延びるカバー片 1 5 , 1 6 , 1 7 の 2 部材で構成されている。各カバー片 1 5 , 1 6 , 1 7 は、既設枠 4 の室外側壁の室外側に重合しており、カバー片 1 5 , 1 6 , 1 7 により既設枠 4 が室外側から見て見えないように隠されている。

主部材 4 9 は、新設枠 1 及び既設枠 4 の室内側壁よりも室内側に延出した延出部 5 1 が設けてあり、延出部 5 1 にはリフォーム枠 3 を躯体 5 に固定するためのねじ 5 2 が挿通される孔 5 3 が設けてある。また主部材 4 9 は、室外側と室内側の 2 箇所に位置決め部 5 4 が設けてあり、各位置決め部 5 4 を新設枠 1 の上枠 3 5 と下枠 3 6 と縦枠 3 7 に外周側から係合させることで、外周枠 2 の上枠 4 5 と下枠 4 6 と縦枠 4 7 を見込方向に位置決めできるとともに、新設枠 1 と外周枠 2 を一体化できるようになっている。

カバー片 1 5 , 1 6 , 1 7 は、室内側面に内外周方向に間隔をおいて折取り自在部 5 5 が複数設けてあり、既設枠 4 の形状等に応じて折取り自在部 5 5 で適宜折取することで、見付寸法を変更できる。

【 0 0 1 1 】

図 2 , 3 に示すように、新設枠 1 の外周側面と外周枠 2 の内周側面との隙間には、気密材 5 7 a , 5 7 b , 5 7 c , 5 7 c が四周連続して設けてある。この気密材 5 7 a , 5 7 b , 5 7 c , 5 7 c は、新設枠 1 のフィンを折取った位置に設けてある。

外周枠 2 の縦枠 4 7 には、横枠（上枠、下枠） 4 5 , 4 6 の端面との接合部にシール材 5 6 が設けてあり、外周枠 2 の横枠 4 5 , 4 6 に沿って延びる横気密材 5 7 a , 5 7 b と外周枠 2 の縦枠 4 7 , 4 7 に沿って延びる縦気密材 5 7 c , 5 7 c の長手方向端部がシール材 5 6 に当接しており、シール材 5 6 を介して横気密材 5 7 a , 5 7 b と縦気密材 5 7 c , 5 7 c とが連続している。これにより、新設枠 1 と外周枠 2 の間の隙間から雨水が室内に浸入するのを防止している。

また、外周枠 2 の上枠 4 5 のカバー片 1 5 と既設枠 4 の上枠 3 1 の室外側壁との隙間、外周枠 2 の縦枠 4 7 , 4 7 のカバー片 1 7 , 1 7 と既設枠 4 の縦枠 3 3 , 3 3 の室外側壁との隙間にも、気密材 5 8 a , 5 8 b が連続して設けてある。これにより、リフォーム枠 3 と既設枠 4 との隙間に雨水が浸入するのを防いでいる。

【 0 0 1 2 】

10

20

30

40

50

図 1 , 5 に示すように、外周枠 2 の縦枠 4 7 のカバー片 1 7 の長手方向端部 1 7 a と外周枠 2 の下枠 4 6 のカバー片 1 6 の長手方向端部 1 6 a の外周側コーナー部にはコーナー部品 9 が取付けてある。コーナー部品 9 は、硬質樹脂で四角形の板状に形成しており、縦枠 4 7 のカバー片 1 7 の長手方向端部 1 7 a と下枠 4 6 のカバー片 1 6 の長手方向端部 1 6 a の室外側に重合し、縦横のカバー片 1 7 , 1 6 間の空いた部分を隠している。

図 1 , 5 に示すように、下枠 4 6 のカバー片 1 6 の長手方向端部 1 6 a には、コーナー部品 9 を取付けるための取付孔 1 0 が形成してある。取付孔 1 0 は、外周側（下側）の幅が内周側（上側）よりも狭いダルマ孔状となっている。

【 0 0 1 3 】

コーナー部品 9 は、図 1 , 4 に示すように、下枠 4 6 のカバー片 1 6 の取付孔 1 0 に挿入される係止突部 1 1 と、縦枠 4 7 のカバー片 1 7 の長手方向端面に係止する係止突起 1 2 と、係止突起 1 2 の上方位置に設けられ、縦枠 4 7 のカバー片 1 7 の室外側面に接着自在な両面テープ 1 3 を有している。係止突部 1 1 は、下向きに曲がった鉤状に形成してある。係止突起 1 2 は、係止突部 1 1 の側方に離間し、左右方向に間隔をおいて複数設けてある。

10

またコーナー部品 9 は、裏面側に縦横のカバー片 1 7 , 1 6 の折り取り自在部 5 5 の位置と同じ位置に折り取り自在部 1 4 が縦横に格子状に設けてあり、カバー片 1 7 , 1 6 を折り取り自在部 5 5 で折り取って見付寸法を変更した場合に、それに合わせてコーナー部品 9 を折り取り自在部 1 4 で折り取ることで、コーナー部品 9 の縦横寸法を変更することができる。

20

【 0 0 1 4 】

コーナー部品 9 の取付け方を説明する。まず、両面テープ 1 3 をコーナー部品 9 の裏面の所定の位置に貼り付け、反対側の剥離紙を剥がしておく。その上で、図 6 (a) に示すように、コーナー部品 9 の係止突部 1 1 を下枠 4 6 のカバー片 1 6 の取付孔 1 0 に室外側から挿入する。この時点では、図 6 (b) に示すように、コーナー部品 9 の係止突起 1 2 が縦枠 4 7 のカバー片 1 7 の室外側面に当接するため、両面テープ 1 3 は縦枠 4 7 のカバー片 1 7 に接着しない。その後、図 6 (b) 中の矢印に示すように、コーナー部品 9 を下方にスライドさせる。すると、図 6 (c) に示すように、係止突部 1 1 がダルマ孔状の取付孔 1 0 に係止してコーナー部品 9 の室内外方向の移動が規制されると共に、係止突起 1 2 が縦枠 4 7 のカバー片 1 7 の長手方向端面に係止してコーナー部品 9 の上下方向の移動が規制され、尚且つ両面テープ 1 3 が縦枠 4 7 のカバー片 1 7 の室外側面に接着してコーナー部品 9 が固定される。

30

【 0 0 1 5 】

このようにコーナー部品 9 は、係止突部 1 1 を下枠 4 6 のカバー片 1 6 の取付孔 1 0 に室外側から挿入して下方にスライドさせるだけで簡単に取付けできる。しかも、スライド時に係止突起 1 2 が縦枠 4 7 のカバー片 1 7 の室外側面に当接して両面テープ 1 3 が縦枠 4 7 のカバー片 1 7 にくっつかないようにしているので、両面テープ 1 3 がカバー片 1 7 とくっついた状態で無理にスライドさせることがないから、コーナー部品 9 の取付けが一層容易に行え、且つ両面テープ 1 3 をカバー片 1 7 としっかり接着できる。係止突起 1 2 が係止突部 1 1 と離間して複数設けてあることで、コーナー部品 9 をより一層安定して取付けできる。

40

【 0 0 1 6 】

外周枠 2 の上枠 4 5 と縦枠 4 7 とのコーナー部にも同様にコーナー部品 9 を取付けることができる。上枠 4 5 側のコーナー部品 9 は、上述した下枠 4 6 側のコーナー部品 9 と上下逆に取付けられる。

【 0 0 1 7 】

図 2 , 3 に示すように、既設枠 4 の室内側の既設額縁 3 4 の内周側には、リフォーム枠 3 を躯体 5 に固定するためのベースとなる取付補助材 6 が四周に設けてある。取付補助材 6 は、アルミ型材で形成したものであって、室外側及び室内側の見付壁 5 9 a , 5 9 b と見込壁 6 0 とで断面コ字型に形成されている。室外側及び室内側の見付壁 5 9 a , 5 9 b

50

には、内外周方向に間隔をおいて折取り自在部 6 1 が複数設けてある。取付補助材 6 は、折取り自在部 6 1 で見付壁 5 9 a , 5 9 b を適宜折取って見付寸法を調整し、見込壁 6 0 の内周側面の位置が既設枠 4 の内周側に最も飛び出した部分 6 2 と内外周方向のほぼ同じ位置になるようにしている。なお、図 2 , 3 では、見付壁 5 9 a , 5 9 b が既設額縁 3 4 と干渉しているように見えるが、実際には折取り自在部 6 1 で折取って既設額縁 3 4 と干渉する部分は無くなる。

各取付補助材 6 は、室外側の見付壁 5 9 a を既設枠 4 の室内側壁に当接して配置され、これにより取付補助材 6 の室内側端の位置が既設枠 4 の室外側端から所定の寸法 A (具体的には 1 1 0 mm) となるように取付補助材 6 を見込方向に位置決めしている。取付補助材 6 は、見込壁 6 0 に内周側から挿通したねじ 6 3 で躯体 5 に固定してある。

10

【 0 0 1 8 】

リフォーム枠 3 は、図 2 , 3 に示すように、外周枠 2 の室内側端 6 4 が取付補助材 6 の室内側端と一致するように見込方向に位置決めし、取付補助材 6 の位置で延出部 5 1 に内周側から挿入したねじ 5 2 で躯体 5 に固定されている。外周枠 2 と取付補助材 6 との間には、必要に応じて飼い木 6 5 を介在させる。

本改装サッシは、このように取付補助材 6 を既設枠 4 の室内側壁に当接した状態で取付けた上で、リフォーム枠 3 (の外周枠 2) の室内側端 6 4 が取付補助材 6 の室内側端と一致するようにリフォーム枠 3 を見込方向に位置決めすることで、リフォーム枠 3 が自然に見込方向の適正な位置に配置され、予めリフォーム枠 3 のカバー片 1 5 , 1 7 と既設枠 4 の室外側壁の一方に設けておいた気密材 5 8 a , 5 8 b が他方に密着し、リフォーム枠 3 と既設枠 4 の間が室外側で止水される。

20

【 0 0 1 9 】

さらに本建具は、図 2 , 3 に示すように、既設枠 4 と取付補助材 6 に跨って既設枠側防水テープ 7 が取付けてあり、取付補助材 6 の見込壁 6 0 と室内側の見付壁 5 9 b に跨ってねじ隠し用防水テープ 6 6 が取付けてあり、リフォーム枠 3 と取付補助材 6 に跨ってリフォーム枠側防水テープ 8 が設けてある。ねじ隠し用防水テープ 6 6 は、取付補助材 6 を躯体 5 に取付けているねじ 6 3 を隠しており、リフォーム枠側防水テープ 8 は、リフォーム枠 3 を躯体 5 に取付けているねじ 5 2 を隠している。各防水テープ 7 , 8 , 6 6 は、市販されている適当な幅の防水テープを使用し、既設枠 4 とリフォーム枠 3 の周方向に沿って連続して貼着して取付けられる。

30

【 0 0 2 0 】

このように本建具は、既設枠 4 と取付補助材 6 に跨って取付けた既設枠側防水テープ 7 と、取付補助材 6 とリフォーム枠 3 に跨って取付けたリフォーム枠側防水テープ 8 を有することで、万が一、リフォーム枠 3 と既設枠 4 の間に室外側から雨水が浸入しても、室内側まで雨水が浸入するのを防ぐことができる。開口部 2 6 の周縁部に取付補助材 6 を設け、取付補助材 6 に防水テープ 7 , 8 を貼着することで、平滑な防水テープ 7 , 8 の貼着面を確保でき、防水テープ 7 , 8 をきれいに貼ることができるため、止水性が高い。また、一枚の防水テープを既設枠 4 とリフォーム枠 3 に跨って貼るよりも、既設枠側防水テープ 7 とリフォーム枠側防水テープ 8 に分けて貼る方が、作業性が良い。さらに、ねじ隠し用防水テープ 6 6 により取付補助材 6 を躯体 5 に取付けているねじ 6 3 を隠してあるので、ねじ 6 3 の孔から躯体 5 に雨水が浸入するのを防ぐことができる。

40

【 0 0 2 1 】

図 2 , 3 に示すように、リフォーム枠 3 の縦枠 6 7 と上枠 6 8 の外周側面には、金属製の板よりなる補強材 2 4 が枠 6 7 , 6 8 の長手方向に間隔をおいて複数設けてある。補強材 2 4 は、リフォーム枠 3 の見込方向のほぼ全幅にわたって設けてあり、外周側からねじ 6 9 で縦枠 6 7 及び上枠 6 8 にそれぞれねじ止めして取付けてある。補強材 2 4 の室内側端部には、リフォーム枠 3 の孔 5 3 の位置に合わせてリフォーム枠 3 を躯体 5 に固定するためのねじ 5 2 が挿通される孔 7 0 が設けてある。そして、リフォーム枠 3 と補強材 2 4 を室内側でねじ 5 2 で躯体 5 に共に固定してある。

【 0 0 2 2 】

50

本建具は、このようにリフォーム枠 3 の外周側に補強材 2 4 を設け、リフォーム枠 3 と補強材 2 4 を室内側で躯体 5 に共に固定してあることで、リフォーム枠 3 が室内側の端部の一箇所で躯体 5 に片持ち状に固定してあっても、リフォーム枠 3 が躯体 5 への固定部を支点として内周側や外周側に転ぶのを防ぐことができる。

【 0 0 2 3 】

さらに本建具は、図 2 に示すように、既設枠 4 の下枠 3 2 の上面とリフォーム枠 3 の下枠 7 1 の下面との隙間の室外側端部位置に隙間調整部品 7 2 が配置してある。隙間調整部品 7 2 は、前記隙間の大きさに合わせて高さ調整自在なものとなっている。リフォーム枠 3 の下枠 7 1 のカバー片 1 6 は、室外側から簡便に着脱できるように嵌め込み式になっており、カバー片 1 6 により隙間調整部品 7 2 が隠れている。

10

このように、既設枠 4 の下枠 3 2 の上面とリフォーム枠 3 の下枠 7 1 の下面との隙間に隙間調整部品 7 2 が設けてあることで、リフォーム枠 3 の下枠 7 1 が室外側が垂れ下がるように変形するのを防止できる。

【 0 0 2 4 】

樹脂額縁 2 7 は、樹脂製の押出型材よりなり、図 2 , 3 に示すように、新設枠 1 の樹脂アングル 3 9 と連続して室内側に延びる見込面部 7 3 と、見込面部 7 3 の室内側端部より外周側に向けて延びる見付面部 7 4 を有している。見込面部 7 3 には、新設枠 1 の樹脂アングル 3 9 が内周側からねじ 7 5 でねじ止めしてある。見付面部 7 4 は、室外側面に内外周方向に間隔をおいて折取り自在部 7 6 が複数設けてあり、既設額縁 3 4 から新設枠 1 の樹脂アングル 3 9 までの距離に応じて、見付面部 7 4 を折取り自在部 7 6 で適宜折取ること

20

ことで、見付寸法を調節できるようにしてある。既設額縁 3 4 には、アングル状の化粧材 7 7 が取付けてあり、化粧材 7 7 で見付面部 7 4 の先端と既設額縁 3 4 との隙間を隠してある。

【 0 0 2 5 】

次に、本建具の施工手順を説明する。まず、図 8 , 9 に示すように、既設枠 4 の室内側に取付補助材 6 をねじ 6 3 で取付ける。その際、取付補助材 6 は、見付壁 5 9 a , 5 9 b を折取り自在部 6 1 で適宜折取って、既設枠 4 の内周側に最も飛び出した部分 6 2 と取付補助材 6 の見込壁 6 0 が見込方向で略同面になるように見付寸法を調整した上で、取付補助材 6 の室外側の見付壁 5 9 a を既設枠 4 の室内側壁に当接して見込方向に位置決めして取付ける。

30

次に、既設枠 4 と取付補助材 6 に跨って既設枠側防水テープ 7 を取付け、且つ取付補助材 6 の見込壁 6 0 から既設額縁 3 4 に跨ってねじ隠し用防水テープ 6 6 を取付ける。

次に、リフォーム枠 3 を組み立てる。リフォーム枠 3 の組み立ては、予め枠組みした新設枠 1 の周囲に外周枠 2 の上枠 4 5 と下枠 4 6 と左右の縦枠 4 7 , 4 7 をそれぞれ位置決め部 5 4 で位置決めしながら外周側から被せ、図 7 に示すように、上下枠 4 5 , 4 6 の端面を縦枠 4 7 , 4 7 の内周側面にシール材 5 6 を介して突き当て、側方から縦枠 4 7 に挿通したねじ 1 0 3 を上下枠 4 5 , 4 6 のタッピングホール 4 8 にねじ込むことで枠組みする。その後、縦枠 4 7 , 4 7 と上枠 4 5 の外周側面に補強材 2 4 を取付ける。なお、リフォーム枠 3 の組み立ては、建具の施工現場で行ってもよいが、工場で組み立てて施工現場に搬入することもできる。

40

次に、上記のとおり新設枠 1 と外周枠 2 とを一体化したリフォーム枠 3 を、図 8 , 9 に示すように、既設枠 4 が取り付けいた開口部 2 6 に室外側から嵌め込み、リフォーム枠 3 の室内側端（外周枠 2 の室内側端）6 4 が取付補助材 6 の室内側端と一致するようにリフォーム枠 3 を見込方向に位置決めする。また、リフォーム枠 3 の下枠 7 1 のカバー片 1 6 をいったん取り外し、隙間調整部品 7 2 の高さを既設枠 4 の下枠 3 2 とリフォーム枠 3 の下

50

枠 7 1 との隙間の大きさに合わせて調整した後、カバー片 1 6 を取付ける。その後、外周枠 2 の縦枠 4 7 と下枠 4 6 とのコーナー部にコーナー部品 9 を取付ける。その後、リフォーム枠 3 を室内側で内周側からねじ 5 2 で躯体に固定する。その後、取付補助材 6 とリフォーム枠 3 に跨ってリフォーム枠側防水テープ 8 を取付ける。

その後、室内側から樹脂額縁 2 7 を取付ける。

【 0 0 2 6 】

このように本建具は、四周枠組みした新設枠 1 の周囲を外周枠 2 で囲んで枠組みし、新設枠 1 と外周枠 2 を一体化した状態で既設枠 4 が取り付けいた開口部 2 6 に室外側から嵌め込み外周枠 2 を躯体 5 に固定することで、既設枠 4 を加工したり、既設枠 4 の内周側に部材を取付けたりする必要がないため、施工性が良い。外周枠 2 の躯体 5 への固定を室内側で行うことで、施工性がより一層向上する。

10

【 0 0 2 7 】

図 1 0 は、本発明の建具の他の実施形態を示している。本実施形態の建具は、既設枠 4 が雨戸 8 5 付きのサッシ枠となっている。既設枠の上枠 3 1 は、雨戸 8 5 の上部を案内する案内溝 8 6 が室外側に張り出して設けてあり、既設枠 4 の下枠 3 2 には雨戸 8 5 の下部を案内するレール 8 7 が室外側に張り出して設けてある。

【 0 0 2 8 】

リフォーム枠 3 の外周枠 2 の下枠 4 6 は、既設枠の下枠 3 2 と干渉しないようにカバー片 1 6 の下部を折り取り自在部 5 5 で折り取ってある。コーナー部品 9 も、カバー片 1 6 と同様に、既設枠の下枠 3 2 と干渉しないように下部を折り取り自在部 1 4 で折り取ってある。

20

【 0 0 2 9 】

以上に述べたように本建具は、縦枠 4 7 と横枠（下枠）4 6 とコーナー部品 9 とを備え、縦枠 4 7 と横枠 4 6 は、外周側に向けて突出するカバー片 1 7 , 1 6 を有し、コーナー部品 9 は、縦枠 4 7 のカバー片 1 7 の長手方向端部 1 7 a と横枠 4 6 のカバー片 1 6 の長手方向端部 1 6 a の外周側コーナー部を隠すため、縦枠 4 7 と横枠 4 6 とのコーナー部を外観よく処理することができる。しかもコーナー部品 9 は、横枠 4 6 のカバー片 1 6 の取付孔 1 0 に挿入される係止突部 1 1 と、縦枠 4 7 のカバー片 1 7 の長手方向端面に係止する係止突起 1 2 と、係止突起 1 2 の上方又は下方位置に設けられ、縦枠 4 7 のカバー片 1 7 に接着自在な両面テープ 1 3 を有し、係止突部 1 1 を取付孔 1 0 に室外側から挿入してから上下方向に移動することで係止突部 1 1 が取付孔 1 0 に係止し、係止突起 1 2 が縦枠 4 7 のカバー片 1 7 の長手方向端面に係止するとともに両面テープ 1 3 が縦枠 4 7 のカバー片 1 7 に接着されるので、コーナー部品 9 の取付けが簡単に行え、尚且つコーナー部品 9 を安定して取付けることができる。すなわちコーナー部品 9 は、係止突部 1 1 を取付孔 1 0 に室外側から挿入してから上下方向に移動する際には、係止突起 1 2 が縦枠 4 7 のカバー片 1 7 の室外側面に当接することで両面テープ 1 3 がカバー片 1 7 とくっつかないので、コーナー部品 9 の取付けが一層容易に行えと共に、両面テープ 1 3 をカバー片 1 7 としっかり接着できる。

30

さらにコーナー部品 9 は、係止突起 1 2 を係止突部 1 1 から離して複数設けてあることで、コーナー部品 9 をより一層安定して取付けることができる。

40

【 0 0 3 0 】

本発明は以上に述べた実施形態に限定されない。縦枠及び横枠の断面形状、材質は、適宜変更することができる。枠の構成は任意であり、例えばリフォーム枠が新設枠と外周枠とで構成されたものではなく、一つの枠のみで構成してあってもよい。コーナー部品の形状、材質は、適宜変更することができる。本発明は、改装サッシに限らず、躯体開口部に直接取付けられるサッシに適用することもできる。また本発明は、引違い窓に限らず、例えばすべり出し窓、嵌め殺し窓、勝手口ドア、玄関引戸など、あらゆる建具に適用することができる。

【 符号の説明 】

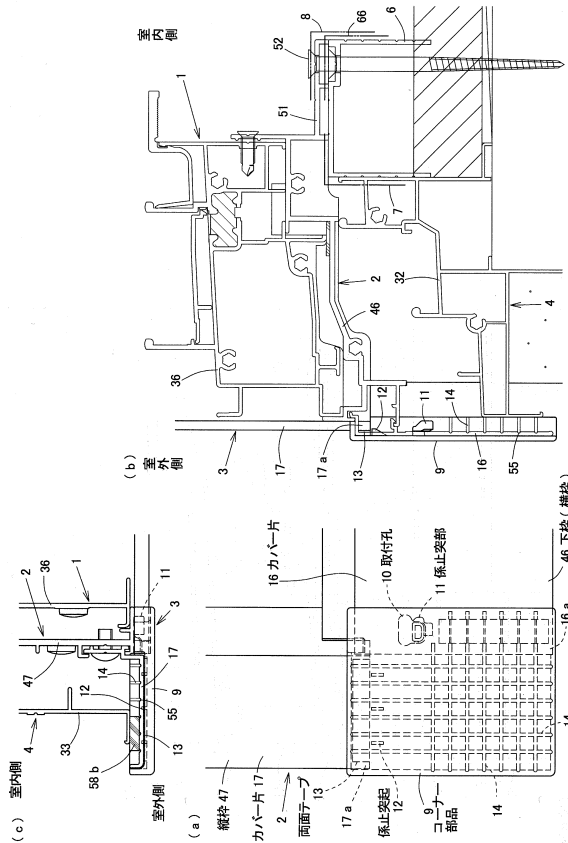
【 0 0 3 1 】

50

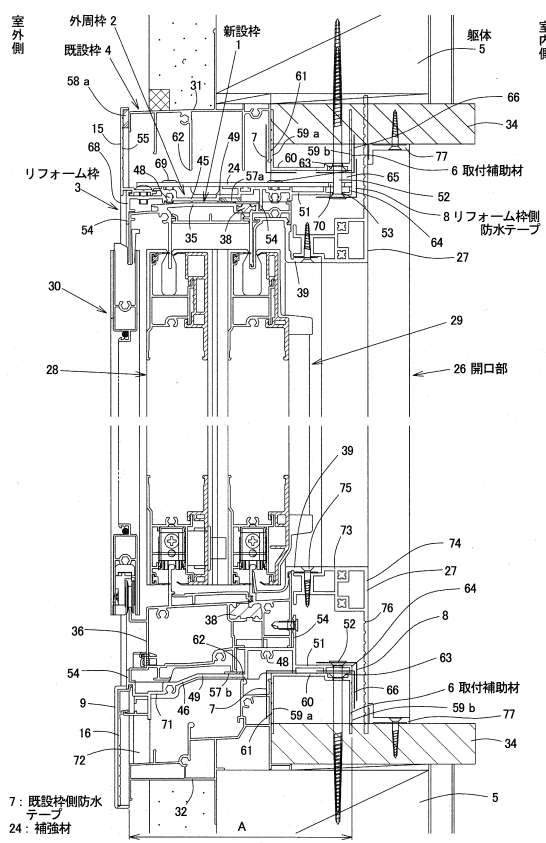
- 9 コーナー部品
 10 取付孔
 11 係止突部
 12 係止突起
 13 両面テープ
 15, 16, 17 カバー片
 46 下枠 (横枠)
 47 縦枠

【図面】

【図 1】



【図 2】



10

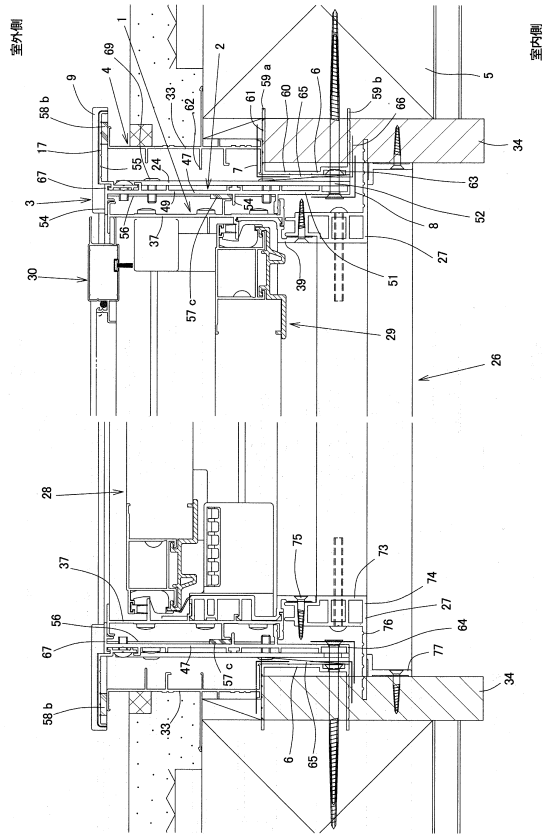
20

30

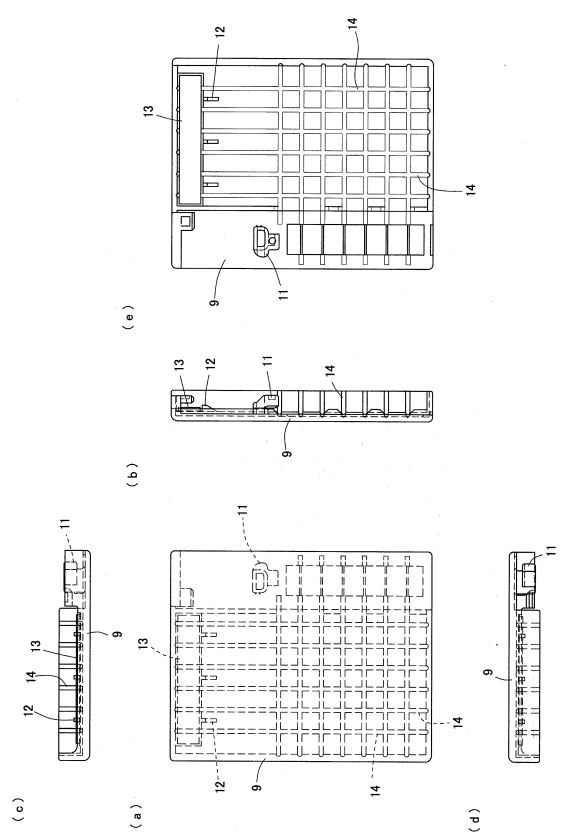
40

50

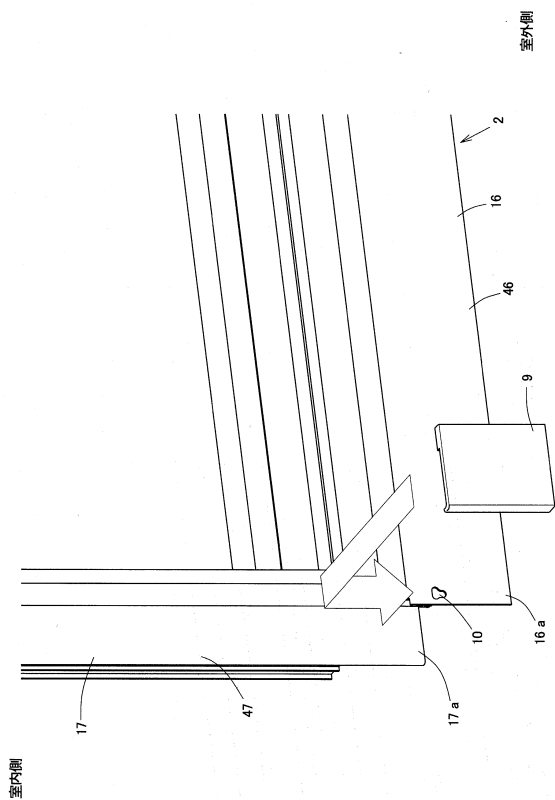
【図 3】



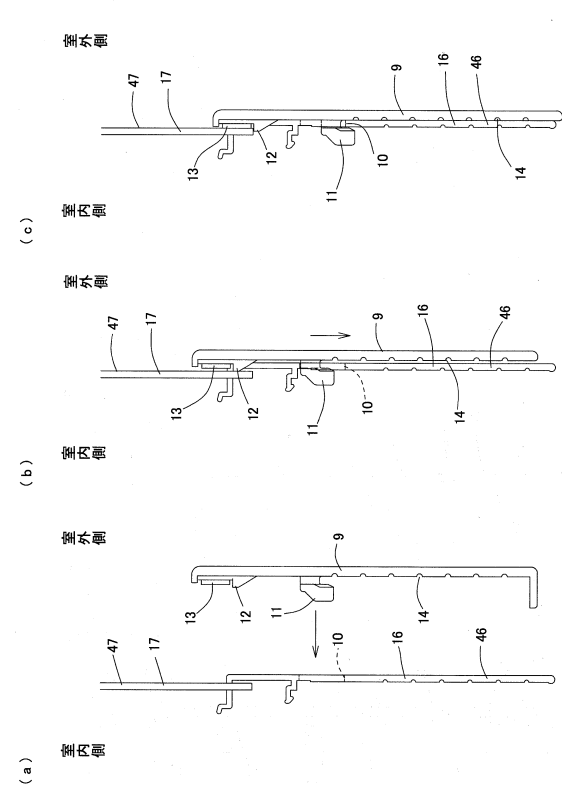
【図 4】



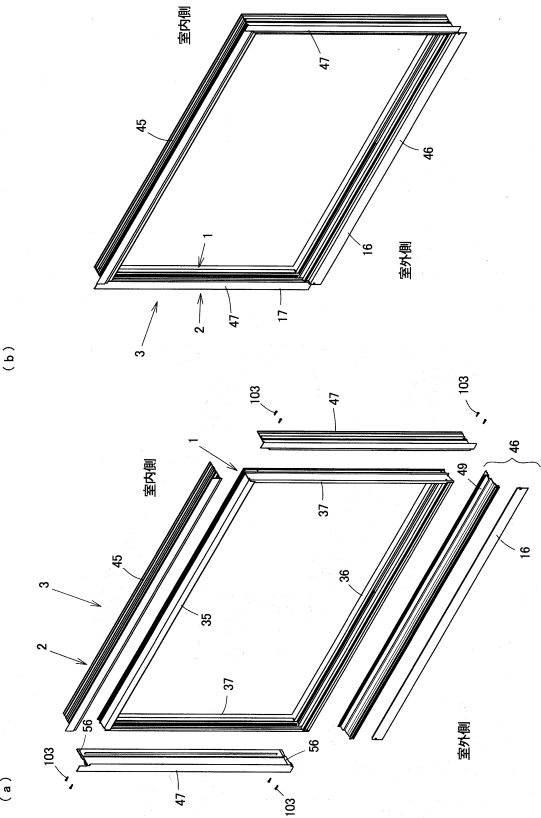
【図 5】



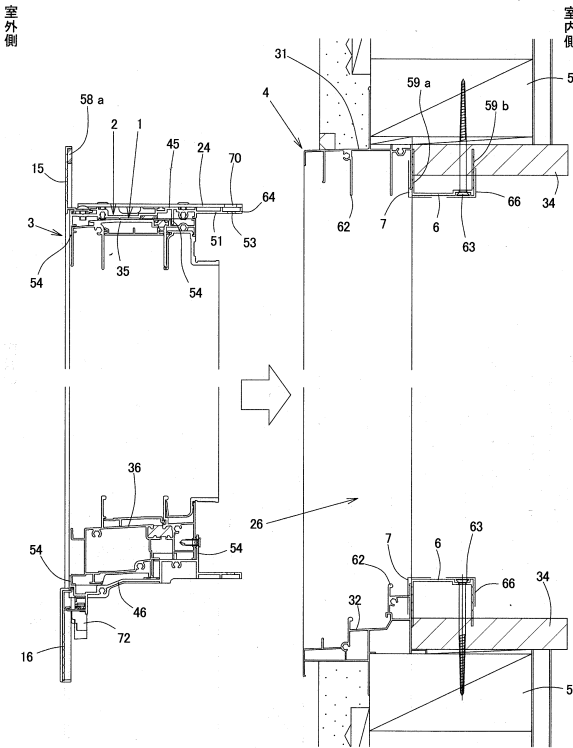
【図 6】



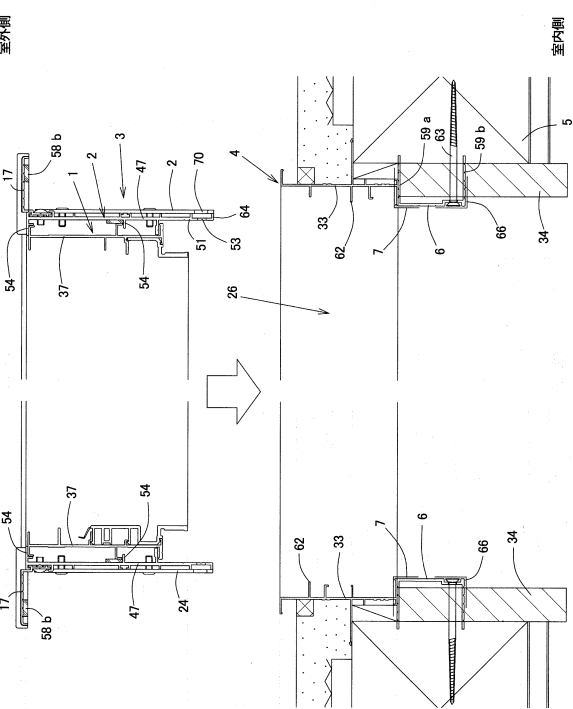
【図 7】



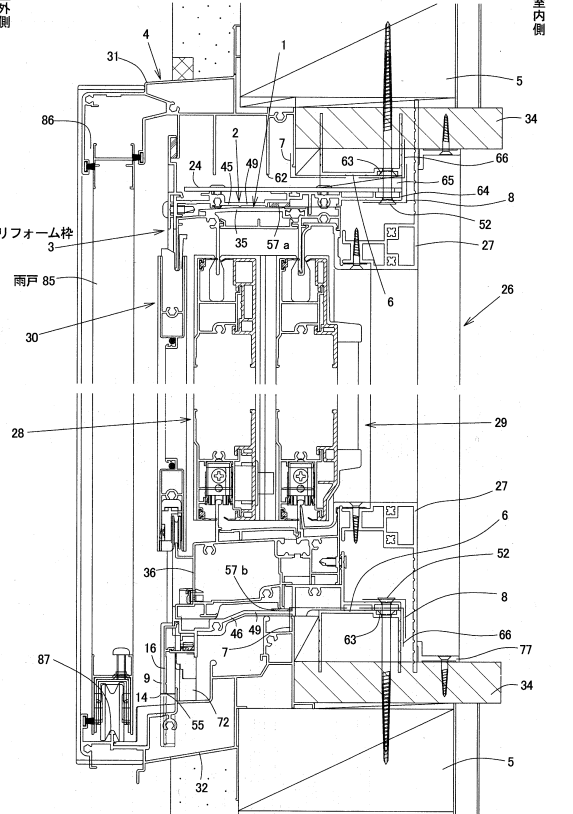
【図 8】



【図 9】



【図 10】



10

20

30

40

50

フロントページの続き

富山県高岡市早川 7 0 番地 三協立山株式会社内
(72)発明者 藤本 毅
富山県高岡市早川 7 0 番地 三協立山株式会社内
審査官 秋山 斉昭
(56)参考文献 特開 2 0 1 7 - 1 1 9 9 4 8 (J P , A)
特開平 1 1 - 2 8 0 3 4 7 (J P , A)
特開 2 0 1 5 - 2 1 8 4 8 3 (J P , A)
特開 2 0 0 7 - 5 6 5 8 8 (J P , A)
実開昭 6 2 - 1 6 6 9 4 8 (J P , U)
実開昭 5 2 - 1 0 2 8 3 3 (J P , U)
特開 2 0 2 0 - 1 9 0 1 2 8 (J P , A)
(58)調査した分野 (Int.Cl. , D B 名)
E 0 6 B 3 / 9 6
E 0 6 B 1 / 3 4